

作成年月日	令和2年8月31日
作成部局課室名	企画県民部芸術文化課

横尾忠則現代美術館

「横尾忠則の緊急事態宣言」

新型コロナウイルスにより、我々の日常は以前とは一変してしまいました。感染症が世界規模で蔓延する様はまるで映画のようにも見え、時に虚構と現実との境界線が曖昧になったような感覚に襲われます。

コロナ禍が起こるはるか以前から、横尾忠則は、虚実が交錯するかのような緊迫した状況を繰り返し描いてきました。今回は、横尾の絵画における、そうした危機的状況の表現に注目します。

また横尾は現在、様々なビジュアルにマスクや口腔のイメージをコラージュする作品《With Corona》をウェブ上で展開しています。本展ではそれらを展示空間各所に散りばめるようなインスタレーションもあわせて行いますので、どうぞお楽しみください。

- 1 会 期 令和2年9月19日（土）～12月20日（日）（80日間）
- 2 開館時間 午前10時～午後6時 ※入場は閉館30分前まで
休館日 月曜日〔祝日・振替休日の場合は開館し、翌平日休館〕
- 3 観覧料 一般700円（550円） 大学生550円（400円）
70歳以上350円（250円） 高校生以下無料
*障がいのある方は各観覧料金（ただし、70歳以上は一般料金）の75%割引、その介護の方（1名）は無料
*割引を受けられる方は、証明できるものをお持ちのうえ、会期中美術館窓口で入場券をお買い求めください
*兵庫県立美術館の特別展または県美プレミアムのチケット半券をご提示いただくと、横尾忠則現代美術館の企画展が団体割引料金でご覧いただけます
※ 関西文化の日〔11月6日（金）、11月13日（金）〕は無料でご観覧いただけます
- 4 主 催 横尾忠則現代美術館（〔公財〕兵庫県芸術文化協会）
- 5 助 成 一般財団法人地域創造
- 6 協 力 ホテルオークラ神戸

【問い合わせ先】 横尾忠則現代美術館
電話 078-855-5602
FAX 078-806-3888
学芸担当：山本淳夫 <yamamoto_atsuo@ymoca.jp>
広報担当：足立彰久 <adachi_akihsa@ymoca.jp>

※画像データは横尾忠則現代美術館 HP (www.ymoca.jp) のプレス専用ページからお申し込みいただけます

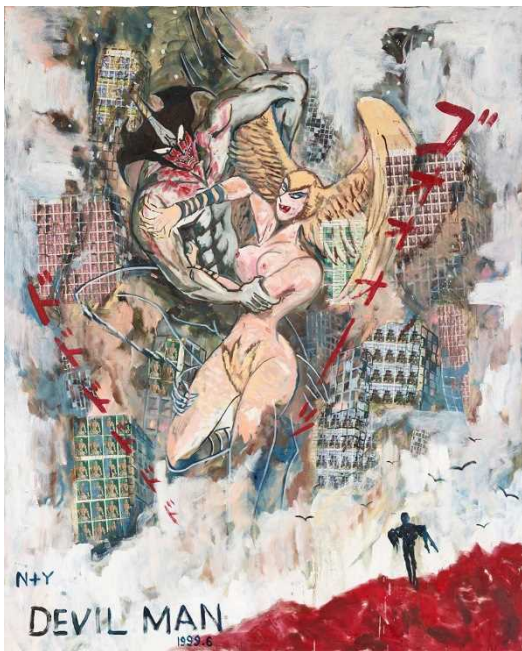
[主な出品作品]



《ライオンと緑の月》1996年
作家蔵（横尾忠則現代美術館寄託）



《トイレ内のミステリー "Y"》1995年
作家蔵（横尾忠則現代美術館寄託）



《Devil Man》1999年
作家蔵（横尾忠則現代美術館寄託）



《壊された五条大橋》1998年
作家蔵（横尾忠則現代美術館寄託）

横尾忠則の緊急事態宣言

Yokoo Tadanori: State of Emergency Declaration

2020年9月19日(土)―12月20日(日)

開館時間 10:00~18:00

※ 入場は閉館の30分前まで

休館日 月曜日

※ ただし9月21日(月・祝)、11月23日(月・祝)

は開館、9月23日(水)、11月24日(火)は休館

会場 横尾忠則現代美術館



ポスター(デザイン:横尾忠則)

展覧会について

新型コロナウイルスにより、我々の日常は以前とは一変してしまいました。感染症が世界規模で蔓延する様はまるで映画のようにも見え、時に虚構と現実との境界線が曖昧になったような感覚に襲われます。

コロナ禍が起こるはるか以前から、横尾忠則は、虚実が交錯するかのような緊迫した状況を繰り返し描いてきました。今回は、横尾の絵画における、そうした危機的状況の表現に注目します。

またコロナ禍に反応するかたちで、横尾は現在、様々なビジュアルにマスクや口腔のイメージをコラージュする作品《With Corona》をウェブ上で展開しています。本展ではそれらを展示空間各所に散りばめるようなインスタレーションもあわせて行います。

巨大生物との死闘

《ライオンと緑の月》はアンリ・ルソーの《眠るジプシー女》(1897年)を下敷きにしている。砂漠にて、疲れ果てて深い眠りについでいるジプシー女の傍らにライオンが寄り添う夢幻的な作品である。1967年、横尾はこの作品のパロディーとして、ライオンがジプシー女を平らげてしまった情景を描いている。《ライオンと緑の月》は、時間軸でいうとルソーのオリジナルと1967年のパロディーのちょうど間に位置するもので、ライオンがまさにジプシー女に襲いかかる瞬間を描いている。

《大阪の親戚に(…)》は長いタイトルが示すとおり、大阪に住んでいた親戚の記憶が主題である。魚屋を営んでいた力松おじさんは、怪しげな商売に手を染めたりする少々胡散臭い人物だった。横尾少年にとって、親しみと同時に警戒心を抱かせる存在だったおじさんが、大ダコと死闘を演じる人物像として表現されている。



《ライオンと緑の月》
1996年
227.0×182.1cm
アクリル・布
作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)



《大阪の親戚に魚屋の力松という人がいた。ぼくが母と一緒にこの人の家を訪ねると、きまったように「タコ食うか?」といってタコの足を切った。この力松のおっちゃんがある日、ぼくの家をチンドン屋を連れてインチキ石鹸を売りに来た。そして夜になると三味線と太鼓で怪しげなパフォーマンスをするのだった。》
2001年
100.3×80.3cm
アクリル、コラージュ・布
作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)

Yokoo Tadanori Museum of
Contemporary Art

Y+T MOCA

横尾忠則現代美術館

時代の肖像

1988年頃、夢に滝が現れたことをきっかけに、横尾は「滝のシリーズ」に取り組み始める。なかでもこの作品は、湾岸戦争という横尾には珍しく政治的なテーマを扱っている。輪郭によって暗示されているのは、イラクのサダム・フセイン大統領（左）、アメリカのジョージ・ブッシュ（父）大統領（右）である。ブッシュの顔の部分に「Nov. 22. 1991」という日付が左右反転して書き込まれているが、多国籍軍がイラクへの爆撃を開始した1991年1月17日のわずか5日後に、この作品が完成したことを示唆している。流れ落ちる滝の水が真っ赤に染まっているのは、戦争で流された人々の血を暗示している。



《時代の肖像》
1991年
194.2×259.0cm
アクリル、刺繍されたワッペン・布
横尾忠則現代美術館蔵

恐怖の愛

1994年に開催された個展「スピチュアル・ポップ」において、横尾は約20点もの新作を発表した。タイトルに「愛」を含む様々な作品が制作されたが、ここでの「愛」は単に安らぎをもたらすものではなく、「生」や「死」の問題も含んだ、劇的な表現となっている。

1981年のいわゆる「画家宣言」以降、横尾は自然と人間、神話や宗教といった壮大なテーマに取り組み、あるいは切り裂いたキャンバスを複雑に組み合わせるなど、様々な試行錯誤を行ってきた。しかし一連の1994年の作品において、自身の外部にテーマを求めるといよりも、幼少期の記憶を中心とする自身の内部にこそ、豊穡な宇宙があることを発見し、新境地を開いたのである。



《恐怖の愛》
1994年
194.0×194.2cm
アクリル・布
横尾忠則現代美術館蔵



《崖淵の愛》
1994年
193.8×194.0cm
アクリル・布
作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)



《愛の回想》
1994年
182.0×227.4cm
アクリル・布
横尾忠則現代美術館蔵

凶事シリーズ

1986年に制作された一連の「凶事シリーズ」は、そのほとんどが細長い縦型のキャンバス（150号 M）を用い、スーツ姿の3人の男性が様々な危機的状況に巻き込まれる様子が描かれている。男性が身に纏うスーツはそれぞれ赤（Red）、緑（Green）、青（Blue）という光の三原色が割り当てられ、劇的なポージングはバロック絵画などから引用されている。《カタストロフィ》では登場人物のうち2名が女性となっており、《黄色い訪問者》では異界からの使者を思わせる巨大な黄色い（Yellow）顔、青い（Cyan）スーツ姿の男性、赤い（Magenta）ドレスの女性に置き換えられている。この場合、三者のシンボルカラーは光の三原色（RGB）ではなく、色の三原色（CMY）として表現されている。



《カタストロフィ》
1986年
227.4×145.5cm
油彩・布
横尾忠則現代美術館蔵



《Red Holl》
1986年
227.3×145.7cm
油彩・布
横尾忠則現代美術館蔵



《赤い無意識》
1986年
227.0×145.0cm
油彩・布
横尾忠則現代美術館蔵



《黄色い訪問者》
1986年
227.3×146.0cm
油彩・布
作家蔵（横尾忠則現代美術館寄託）

銃撃戦

それぞれ制作時期も作風も異なるが、いずれも銃撃戦をモチーフにしている。《無題》では美女を人質に取ったギャングと思しき人物の目にあたる部分は銃口か弾痕のようにもみえ、背景にはなぜか脚立が散乱している。《愛の洞窟》は愛し合う恋人たちにも、美女とその血を吸う吸血鬼にもみえ、肝心の女性の表情は弾痕によって消し去られている。《戦場の昼食》は1990年に横尾がインドに滞在していた際、現地の看板職人に指示してマネの《草上の昼食》に似たポーズをとるインドの神々を描かせた上から、2019年に新たに加筆したものである。男性神は「LOVE（愛）」、女性神は「MONEY（金）」と語り、全体的に牧歌的な雰囲気であるにもかかわらず画面全体に弾痕が散りばめられ、ここが戦場であることを示唆している。



《無題》
2018年
130.5×97.0cm
油彩・布
作家蔵（横尾忠則現代美術館寄託）



《同土討ち》
1994年
162.0×130.4cm
アクリル・布
作家蔵（横尾忠則現代美術館寄託）



《愛の洞窟》
2018年
116.7×80.3cm
油彩・布
作家蔵（横尾忠則現代美術館寄託）



《戦場の昼食》
1990 / 2019年
178.0×213.5cm
油彩・布
作家蔵（横尾忠則現代美術館寄託）

Yokoo Tadanori Museum of Contemporary Art
Y+T MOCA
横尾忠則現代美術館

危機一髪

横尾が中学生時代に熱中した少年向け冒険小説「新ターザン物語 バルーバの冒険」シリーズの挿絵を引用した作品。同シリーズは密林の王者ターザンの物語を日本の青少年向けに翻案した南洋一郎の代表作であり、鉛筆のストロークを幾重にも重ねた、ジャングルのむせ返るような熱気を感じさせる鈴木御水の挿絵は、少年時代の横尾を完全に魅了した。《屋外で危機一髪》《室内で危機一髪》は大ゴリラから美少女グレースを守ろうとするバルーバ、《出会い頭》はバルーバの好敵手である片目の黄金獅子との死闘が描かれているが、戦いの場は《室内で(…)`ではなぜかモダンな室内、《出会い頭》ではジョルジュ・スーラの《アニエールの水浴》(1884年)と変貌している。



《屋外で危機一髪》
2001年
53.1×45.7cm
アクリル・布
作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)



《室内で危機一髪》
2001年
60.7×50.2cm
アクリル・布
作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)



《出会い頭》
2001年
60.8×72.8cm
アクリル・布
作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)

基本情報

横尾忠則の緊急事態宣言 Yokoo Tadanori: State of Emergency Declaration

2020年9月19日(土)―12月20日(日)

開館時間 10:00―18:00 ※入場は閉館の30分前まで

休館日 月曜日 ※ただし9月21日(月・祝)、11月23日(月・祝)は開館、9月23日(水)、11月24日(火)は休館

主催 横尾忠則現代美術館([公財]兵庫県芸術文化協会)

助成 一般財団法人地域創造

協力 **ホテルオークラ 神戸**

観覧料 一般700円、大学生550円、70歳以上350円、高校生以下無料

※ 20名以上の団体割引および前売は行いません

※ 障がいのある方は各観覧料金(ただし70歳以上は一般料金)の75%割引、その介護の方(1名)は無料

※ 割引を受けられる方は、証明できるものをご持参のうえ、会期中美術館窓口で入場券をお買い求めください

出品点数 絵画 約60点

※ 新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、当面関連事業は行いません

※ 詳細および最新情報は当館HPをご覧ください

お問合せ

横尾忠則現代美術館

〒657-0837 兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30

tel. 078-855-5607 (総合案内) fax. 078-806-3888

学芸担当: 山本淳夫 <yamamoto_atsuo@ytmoca.jp>

広報担当: 足立彰久 <adachi_akiyoshi@ytmoca.jp>

画像データは当館ホームページ(www.ytmoca.jp)のプレス専用ページからお申込みいただけます

ホームページに掲載されていない画像は、上記連絡先までご請求ください